



たかみ

北九州市立高見中学校 学校通信
平成29年12月15日 No.
発行責任者 校長 丸山誠吾
学校所在地 八幡東区高見四丁目4番1号

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

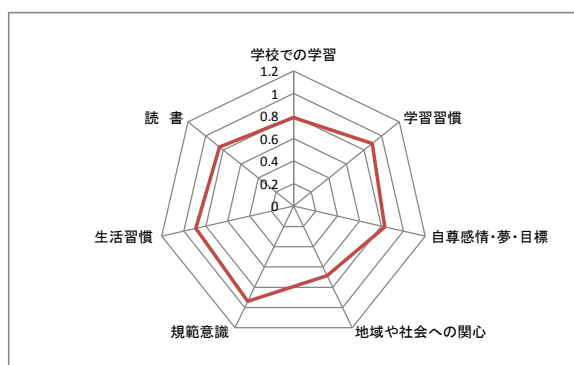
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全国平均を上回ることができた。「話す・聞く能力」や「言語について知識・理解・技能」では、基礎的な学力を身につけている。「書く能力」や「読む能力」には課題があり、読む・書くことを習慣化する必要がある。	上回っている
国語B	全国平均を下回っており、無回答率も全国平均と比べて高い傾向にある。特に、「言語についての知識・理解・技能」に課題がある。	下回っている
数学A	全国平均を下回っており、「数学的な技能」や「数量や図形などについての知識・理解」に課題がある。	下回っている
数学B	全国平均を下回っており、「数学的な技能」や「数量や図形などについての知識・理解」に課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・各授業の中で、本時の「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定することにより、一定の成果を上げている。反面、自分で計画を立てて勉強をしている生徒、家で学校の授業の復習をする生徒は全国平均と比べて少なく、家庭学習に課題が見られる。
- ・地域の行事に参加する生徒や地域や社会に関心のある生徒は全国平均と比べて少なく、自分が地域や社会の一員であることの自覚を促す取組が必要である。
- ・将来の夢や目標をもっている生徒は全校平均と比べて低く、それぞれの夢を実現させるために、具体的な目標設定を行い、行動に結びつけることができるようなキャリア教育の推進が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・日々の宿題(課題)は、教科担任が提出の有無や内容等を点検した後、生徒に返却する。長期休業日中の課題等については、係の生徒が回収し、提出の有無を調べた後、担任が確認。その後、教科担任が内容を点検し、生徒に返却する。未提出の場合は、教科担任や担任から提出を促すなど、提出物の徹底を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間を確保するために、課題(宿題)の内容や量について各教科で共通理解を図る。また、放課後の時間について実態調査を行い、生活ノートを活用した家庭学習の方法について、担任が点検・指導を行う。